

平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	卒業後の生活を見越した自立活動の指導方法 —「余暇の充実」の教材・単元づくりから—
報告者氏名・所属・職名	山口 詠子 ・ 附属特別支援学校 ・ 教諭
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	宮下知子 ・ 附属特別支援学校 ・ 教諭 岡山 努 ・ 附属特別支援学校 ・ 教諭 土屋和彦 ・ 附属特別支援学校 ・ 教諭 紀藤典夫 ・ 附属特別支援学校 ・ 校長・函館校教授 中村洋子 ・ 附属特別支援学校 ・ 非常勤教諭
研究内容及び成果の概要	
<p>高等部卒業後の生活において有意義な余暇を過ごすための要素として、</p> <p>(1) 一人でも楽しむことができるもの（準備・道具の管理も含む） (2) 必要な道具の種類や数が比較的少なく、廉価で楽しめるもの (3) 長期的に楽しむことができるもの</p> <p>の3点が考えられ、それらについて在学中にどのような単元や教材構成で扱うのかについて一考した。</p> <p>教材研究に関しては、2つの実践を行った。1つは本校小学部5・6年生で行った、教師が作成した消しゴムハンコで装飾するメモ帳作りの取り組みである。メモ用紙になる紙をはさみで切り、そこに自分で選んだハンコを押す活動であったが、学習を重ねるたびに、好きな色やお気に入りのハンコを見出し、それらを活用しようと意欲的に学習に取り組む様子が見られるようになった。このことから、廉価で、容易に多くの種類を作成できる消しゴムハンコは、子どもの能動的な活動を引き出すアイテムの1つになりうる可能性を感じている。2つ目は、本校高等部の自立活動の時間に行った、自己理解や他者理解を深める取り組みである。自己・他者理解を支援するアイテムとして、感情カードを導入し、エピソードに対する、自分や他者の感情を想像する活動を行った。取り組み当初は、教師が用意した既存のカードを用いて感情を表現していたが、経験を積むことにより、生徒自ら自作のカードを作成するようになり、感情のやり取りがスムーズに行えるようになった。このことにより、単純なイラストがコミュニケーションの一助になると考えている。</p> <p>また、卒業後の余暇活動の支援のあり方について、近隣の特別支援学校において、本校の保護者と教職員が作成した「よかしえんガイドBOOK」について紹介し、保護者から、講演の内容や余暇活動についてのアンケートに対する回答を得た。そこでは、学童期の子をもつ保護者の、余暇活動に対して感じている困難さや要望などを知り、在学中に身に付けさせたい知識や技能、学びに向かう力などについて検討の材料となった。また、余暇の充実を“アート”という視点で支援するにあたり、「アール・ブリュット北海道・東北2018」や「北海道アールブリュット展」、「第22回いわて・きららアート・コレクション」を視察した。障がい者のアートが生涯学習や他者とのかかわりとの接点になりうるための、現在の成果と課題、支援者側に必要な視点やスキルなどについて示唆を得た。障がい者のアートに対する社会の関心や価値が高まっている今こそ、障がい児・障がい者が「余暇」を通じて選択肢を広げたり、他の領域との接点を増やすことは、一般生活でのインクルーシブな場面の拡大にも寄与するものであると考える。</p>	
成果の公表の状況	
【著書】 【学術論文】	
教育現場で活用可能な分野・教材等	



よかしえんガイドBOOK (北海道教育大学附属特別支援学校PTA 2018.3発行)

配布又はダウンロード可能な資料

問合わせ先

代表者：山口 詠子
電 話：0138-46-2515
FAX : 0138-47-8729
mail : yamaguchi.eiko@h.hokkyodai.ac.jp